

北上山地高標高公共草地における日本短角種の体重変化

研究のねらい

日本短角種の繁殖・肥育素牛生産の主体は、公共草地における親子放牧にある。放牧牛群の適切な飼養管理には牛の体重推移や増体量の把握が重要であるが、日本短角種の放牧中の体重変化の情報は、親、後継牛および子牛を含めた営農現場のものは少ない。そこで、2つの北上山地高標高公共草地における全頭を対象として、日本短角種親子牛群の体重変化を明らかにする。

成果の内容

- ①子牛の体重は、増体の季節変化が小さく、ほぼ直線的に、発育標準値と同様かそれより高く推移する。放牧期間の日増体量は、発育標準値と同等かそれより高い（表1と図1）。
- ②雌1才牛（後継牛）の体重は、増体が夏に低下するが、発育標準値と同様かそれより高く推移する。放牧期間日の増体量は発育標準値より高い（表1と図1）。
- ③雌親牛の体重は、春から夏にかけて増加し、その後減少する傾向を示すが、入牧時より退牧時の方が高い（表1と図1）。これは、雌親牛が、個体維持と授乳に十分な栄養を得ていることを示す。
- ④以上の結果は、北上山地高標高公共草地において、年間草生産量が草地管理指標の生産目標（600～900 g 乾物/m²）と同程度であり、放牧圧が1.5～2.0家畜単位/haのもとで得られている（表1）。

表1 北上山地高標高（930～1000m）公共草地の年間生産量と牛の日増体量

	調査年	放牧期間の日増体量(kg/頭/日)				草地の年間生産量 (g乾物/m ²)	放牧圧 (家畜単位/ha)
		去勢雄子	雌子	雌1歳	雌親		
A公共草地(39ha)	2003	1.24	1.17	0.89	0.57	780～830	1.7
A公共草地	2004	1.17	1.09	0.75	0.28	960～1040	1.5
B公共草地(23ha)	2004	0.96	0.97	0.62	0.31	1070～1100	2.0
発育標準値		0.89	0.93	0.38			

注) 家畜単位は、1頭(組)のポイントを種雄1.5、親子1.35、成牛1、1才牛0.8として計算。

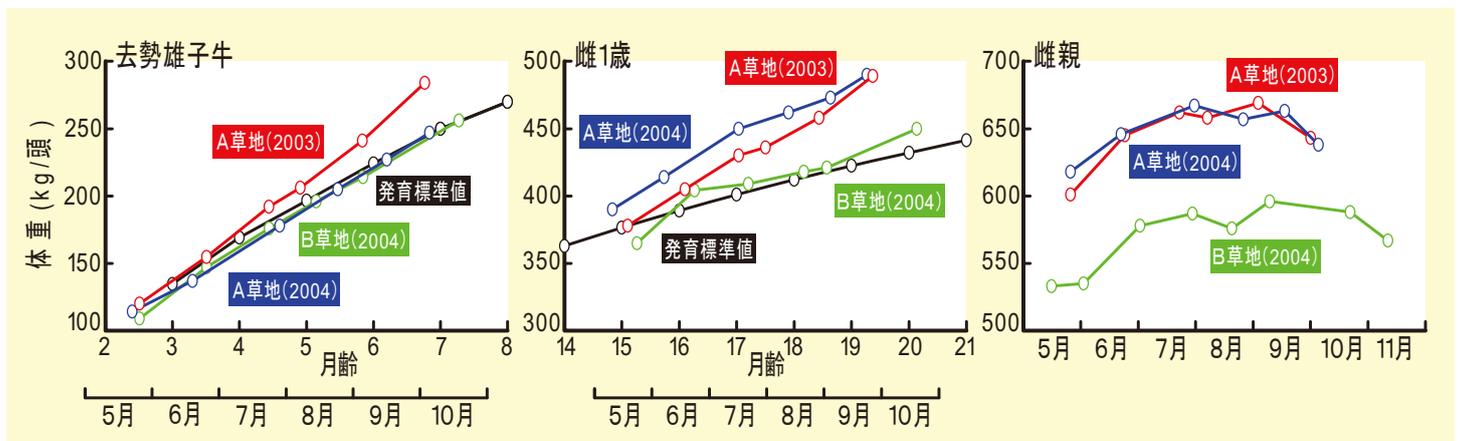


図1 放牧中の体重の変化

